

大隅地区教育課題 (◎: 最重点課題, ○: 重点課題) を振り返って～次年度に向けて～

◎ 確かな学力の定着

- 授業改善の推進
(「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり)
- 「学ぶ姿勢」育成
- 学力向上に関する校内PDCAサイクルの確立

令和元年度鹿児島学習定着度調査結果

		国語	社会	算・数	理科	英語
小5	県	73.6	72.3	76.7	81.2	
	地区	72.5	72.1	77.0	80.7	
	県比	-1.1(-3.5)	-0.2(-3.3)	+0.3(-2.9)	-0.5(-3.8)	
中1	県	79.6	64.9	71.3	64.8	67.9
	地区	78.9	61.2	69.3	61.2	64.7
	県比	-0.7(-2.6)	-3.7(-4.1)	-2.0(-3.6)	-3.6(-4.1)	-3.2(-3.5)
中2	県	74.5	61.2	60.7	58.0	61.0
	地区	73.3	59.4	58.2	54.8	56.9
	県比	-1.2(-1.6)	-1.8(-2.5)	-2.5(-3.1)	-3.2(-3.8)	-4.1(-3.6)

※ 県平均通過率は2/6時点の速報値
※ () は、昨年度の県平均との差

昨年度に比べ、多くの学年・教科で、地区と県の平均通過率の差が小さくなっている。県平均を上回る教科もある。全体的に向上が見られた。

これまでの学習内容は、年度内にしっかり復習を！

◎ 不登校の改善

- 不登校の未然防止
(「学校楽しいーと」等の活用)
- 不登校の解消(「子供のこころのSOS相談事業」等)

不登校の状況【令和元年度月例報告(12月末)】

	H30	R1
小学校	51人(0.40%)	42人(0.32%)
中学校	147人(2.43%)	167人(2.75%)

昨年度の同時期と比較して、不登校児童生徒の在籍率は、小学校において減少しているが、中学校では、増加している。(詳しくは裏面で)

不登校の未然防止

構成的グループエンカウンター等による「絆づくり」「心の居場所づくり」の充実。

不登校への早期対応

SC, SSW 等と連携を図り、早期に組織的な対応を図る。

◎ 体力・運動能力の向上

- 「体力アップ! チャレンジかごしま」の積極的推進
- 体力・運動能力調査の効果的活用の促進
- 学校体育の充実

体力合計点の比較 (点)

R1	小5男	小5女	中2男	中2女
全国	53.61	55.59	41.69	50.22
鹿児島県	52.57	54.87	40.32	49.03
大隅地区	52.74	55.13	39.73	48.10
H30大隅地区	52.80	56.06	41.45	49.10

小5の男女は、県平均を上回ったが、全種目、全国平均を下回っている。また、昨年度の地区の平均と比較すると全種目で下回っている。

「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを模索している中、体力の緩やかな下降傾向がうかがえる。昨今、児童・生徒に十分な運動時間が確保された授業実践に努めていただきたい。

◎ 家庭の教育力の向上

- 学力を支える基本的生活習慣の確立
- 家庭教育を支援する学習機会の充実
- つながりをつくるPTA活動の推進

調査項目	校種	割合(%)	前年度との比較
		R1	
朝食を毎日食べている。	小	93.5	+0.8
	中	93.9	+0.4
毎日同じくらいの時刻に寝ている。	小	78.7	+3.2
	中	79.5	+3.5
平日の勉強時間が1時間未満である。	小	28.7	-0.5
	中	30.0	+0.2

100%まであと少し! 朝食摂取の習慣化を!

メディア機器使用との関係大! 「守ります! 9時オフ。」と併せて指導を!

小学生 60分、中学生 90分以上が目標! 帰りの会等で宅習の計画を立てさせましょう!

【全国学力・学習状況調査より】

特別支援教育の充実に向けて

学校間の連携の充実

就学、進学先の学校において、最初のスタートをスムーズに切るために、移行支援シートや個別の教育支援計画等のツールを活用しながら、学校間の連携の充実を図りましょう。

【学校間の連携を充実させるためのチェックポイント】

- 特別支援教育に関する保護者への理解・啓発
- 校内委員会の役割の明確化(取り扱う内容の整理と引継ぎまでを含めた計画的な運営)
- 個別の教育支援計画の作成及び機能化
- 引継ぎの場と引き継ぐツールの具体化(連絡会等や移行支援シート等の活用)



悩んでいませんか？

離席が多かったり、突然泣きわめいたりする児童がいる。どう対応したらいいか悩んでいる。



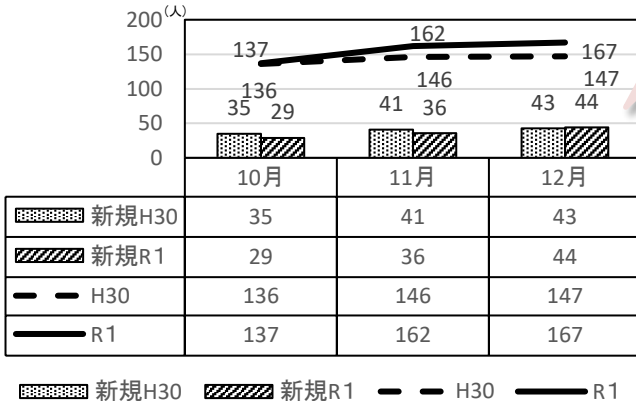
行動は、その子供のメッセージと捉え、起きた行動にどう対応し、その結果どうなったか、起きた行動の直前の状況から、きっかけ、要因を分析し、校内委員会で情報を共有することが大切です。そして、個別の教育支援計画や個別の指導計画の評価を行って、対応策を検討していきましょう。特に、こうしたケースは、長期的な支援が必要になります。特別支援学校の巡回相談員から専門的なアドバイスをもらうことで、より確かな行動の変容が見られることも考えられます。また、就学、進学先との連携も充実させましょう。



一人で悩まず、学校全体で情報を共有し、チーム学校で取り組みましょう！

中学校で不登校急増！

不登校の状況(中学校)



【月例報告 12月末現在】

- ・ 不登校生徒数が10月からの3ヶ月で30人増加
- ・ 前年度より不登校生徒数が20人増加
- ・ 新規不登校生徒数が増加

不登校の未然防止・初期対応

- ア 構成的グループエンカウンター等による「絆づくり」、「心の居場所づくり」の充実
- イ 児童生徒の心理状態や学校に登校しながらない経緯の正確な把握
- ウ 担任だけの対応にならないように情報の共有や役割の分担等、全校体制での取組の充実

地区研究協力校(池田小) 研究公開~へき地・小規模校教育の充実~

11月29日(金)、池田小が「へき地・小規模校教育」の研究公開を実施しました。「自信をもって思いや考えを伝え合い、考えを深め合う子供の育成~算数科における対話的な学びを通して~」の研究主題のもと、これまでの研究の成果を発表しました。池田小では、算数科における主体的に学ぶ指導過程を確立し、共通実践を進めました。一単位時間における終末では、複式学級のよさを生かした異学年での対話で振り返りを行い、自分たちの学びをしっかりと振り返ることができていました。

なお、これまでの研究公開の報告や研究紀要等が閲覧できます。
<http://www.pref.kagoshima.jp/bb05/koukaihoukoku.html>



令和元年度「地域学校協同活動」推進に係る文部科学大臣表彰

伊崎田学園 学校運営協議会	校区公民館を中心に、学校、地域、関係団体が連携し、伊崎田相撲、伊崎田和紙の作成等を地域の指導者等を中心にして取り組んでいます。
かのや学校応援団 串良地域学校支援活動	公民館がコーディネーター役となり、学校、地域、関係機関が連携して、平日の放課後と土曜日に子供の居場所づくりとして「鹿屋寺子屋」を開催しています。

令和元年度へき地・小規模校教育優秀校

鹿屋市立高須小学校	高須交通少年団やヨット学習などの取組を行っています。
-----------	----------------------------

令和元年度鹿児島県学校保健、学校安全、学校体育、学校給食表彰

学校保健準優良校	鹿屋市立寿北小学校	体育科を中心に全校体制で粘り強さの育成に取り組んでいます。
学校安全優良校	志布志市立通山小学校	地震発生時における津波への対応等、防災教育を進めています。
学校給食優良場	垂水市立学校給食センター	地場産の魚を活用した献立など、郷土への愛着を育む取組を進めています。